

※全校にかかわる内容のみ載せてあります。

【学校行事等について】

○「わかば」にマラソン大会の上位の名前を載せなくなりました。書写展示などの子の名前は発表があるのに、なぜでしょうか。

マラソン大会上位の名前が載らなくなったのは、「わかば」の発行が年4回から年3回に変更され、発行時期の変更や運動会や学習発表会の紹介が中心となるという紙面上の都合が大きな理由です。集会の中で表彰を行い、賞状を授与していますので、上位の子は十分に達成感を得られていると思います。

○授業参観と学年懇談会を同時にやらないでほしい。複数きょうだいを一人親だと困るので、懇談会はYouTubeでも、とかだったらいいなと思います。

授業参観と学年懇談会は、直接顔を合わせて話をすることが大切と考え、今の形で実施しています。学年懇談会を欠席された方には後日要項をお配りするので、読んでいただいて疑問に思うことがあれば担任にお尋ねしていただければと思います。動画配信については、今のところ考えていません。

○野外活動で1泊と2泊が年度で違うのはなぜでしょうか。

年度で異なるわけではなく、学校として1泊にすることを決め、今後も1泊を続けていきます。理由としては、はじめての宿泊行事がいきなり2泊で、家とは違う環境で長い時間過ごすことになり、児童の精神的、体力的な負担が大きいこと、1泊でも、食事づくり、キャンプファイヤー、森林体験などの主となる活動を行うことが可能なこと、活動場所から病院までが遠く車で30分かかり、緊急事態が生じたときの対応にやや不安が残ることなどです。参考までに、市内の大半の学校が、2泊から1泊に切りかえています。

○学期に一度は授業参観を設けていただき、子どもの活躍する姿が見たい。

昨年度と同じように、2学期、10月のはじめに3日ほど、指定した時間内であれば、都合のつく時間に授業参観ができる学校公開日を実施する予定です。3学期については、感染症の流行のこともありますので、現在のところ予定していません。

【生活指導等について】

○いじめがあった場合に、事実を保護者に伝えてほしいという質問について

いじめは被害を受けた子が心に深く傷を負っていることが多く、慎重に扱う必要があります。関係者がしぼられるいじめについては、これまでも事実、指導方針、指導の経過等を関係者である児童、保護者に必ず報告しています。学年や学級全体にかかわるいじめについては、個々の事案によって判断しています。被害を受けた家族が公表を望まない場合には、公表を控えます。被害を受けた家族が公表を問題にしない場合でも、文書として公表することによって、文書が拡散されたり、被害者や加害者を特定しようとする動きが生じたり、噂や事実とは異なる内容が広まったりするなどの影響が予想され、児童、家族を必要以上に不安にさせてしまう心配があります。ただ、公表をすることによって、家族で児童と話し合う機会ができることやいじめを大きな問題としてとらえ、以後の抑止力としてはたらくという効

果もあります。

学年や学級全体にかかわるいじめの公表については、一律にしないということではなく、被害を受けた家族の意向、周囲への影響、公表による効果などを考慮に入れながら、個々の事案によって適切に対処していきたいと思っています。

○一斉下校時に、交通安全や防犯のために、班で整列して下校することの大切さをご指導していただけたら幸いです。門を出たらすぐ、班を離れてしまう生徒さんがいるようです。私自身、途中まで迎えに行く機会がありますが、整列していない班を見かけることが多々あります。特に低学年の生徒さんが取り残されてしまうと、危険だと感じます。

一斉下校の整列時や学級での指導のときに、整列して安全に帰る大切さを話しています。ただその指導が浸透していないのが事実です。登下校中、高学年は低学年の子の様子をよく見て、低学年は高学年の子の言うことをよく聞いて、集団で安全に帰ることを、粘り強く指導していかないと考えています。

○毎朝通学団の集合場所まで行っていますが、あいさつが出来ない子が多いと思います。しかし、昨今の世の中の状況を見るとやたらと挨拶するのも良くない世の中だと思う方もいるのかなと思い、どうしたら良いのか分からず複雑です。何が正解かは分かりませんが、八南小学校ではどのような教育をしているか単純に知りたいです。今後の我が子への教育の参考にしたいと思います。よろしくお願いいたします。

「八南っ子五つの約束」には一番はじめに「はっきりあいさつ、元気な返事」というのがあり、それを毎朝クラス全員で言っています。教職員は毎朝自分から子どもたちに「おはようございます」と声をかけています。子どもたちの反応がよいとは言えませんが、明るい笑顔で・はっきりした声であいさつができるよう、大人が率先してあいさつしていきたいと考えています。

○傘の扱い方のご指導をお願いできたら幸いです。傘は先が尖っており、振り回すと、周りの生徒さんの目などに当たって重大な事故に繋がりがねないと思います。

雨の日だけでなく、暑い日には日傘を使う子もいますので、傘の使い方についての指導をしっかりと行う必要性を感じています。事故が起こってからでは遅いので、1人1人の自覚を高めていけるようにしたいです。また、ご家庭でも傘の扱い方についてお子さんにお話ししていただけますようお願いします。

【学習指導について】

○市内に学期末テストがある学校があります。問題プリントを配られ、そこから出題され、追試もあるようです。そのような取り組みがあっても良いかと思っています。

学期末には、その学期で学習した漢字や計算の復習などを授業内で行うようにしています。理解が十分でない場合は、学校でも個別に指導するようにしています。授業は一斉授業が基本ですので、追試を授業時間に行うことは難しく、休み時間などの授業時間外に行うことになってしまいます。漢字や計算など繰り返し練習して定着させることは、個人差もありますので、毎日の宿題の中で、苦手な漢字や計算に取り組むのもよいかと思っています。

【学校－保護者間の連絡について】

○4月に欠席した時にプリントなどを届けてもらう子を記入しましたが、今まで欠席しても一度もいただいたことがなかったので、この制度はまだあるのですか？

○学校を欠席した時に、学校から、授業の内容や次の日の予定のお手紙をいただくことが過去に何度かありました。お友達からのメッセージが書いてあり、子どもとても喜んでいました。大変ありがたく思っております。ですが、その手紙を届けるのは、4月に提出した連絡帳を届ける第1第2の子とは違うのでしょうか。第1は兄弟がいる場合は兄弟で、だったと思いますが、うちは弟がいるにもかかわらず、近所のお友達が届けてくれました。同じ家に帰る子どもがいるのに、よその子どもがわざわざ届けてくれるのも申し訳ない気がします。結局、4月の提出した名前は連絡帳に関してのみ適応されて、その他については別問題との認識なのでしょうか。個人的には、学校からのお届け物全般に関わるものだと思っておりましたので、もし連絡帳のみということであれば、そのように認識を改めます。

○八南小学校の感染症の家庭に対する配布物の扱いについて、お願いします。先日、欠席したお友達のところへ、学校からの届け物をしに下校途中に寄った際、インターホンを押して、お友達本人が出てきました。うちの子がなぜ休んでいたのか話を聞いたそうです。その時に、コロナにかかっているということを聞きました。うちの子は当然お友達がコロナとは知らなかったし、保護者間でもそんな話はしないし、知っているのは学校とその家庭だけです。ですので、その時はお互いノーマスクでした。お友達の家へ配布物を届けることに対してはお互いさまの気持ちでいます。しかし、インターホンを押すことで、接触してはいけない期間に接触する可能性が出てしまいます。今回、うつることはありませんでしたが、コロナ以外の感染症についても、同様の心配があります。感染症に罹患している家庭には、電話で対応する、先生の手で届ける、またはインターホンは押さずにポストインのみにするなど、何かしらの方法で、子どもが感染者と接触することがないような手立てを考えていただけませんか。

連絡帳を届ける第1、第2の子の名前を書いて連絡帳の表紙に貼付していただいておりますが、家庭に連絡帳を届けてもらうときにお願いする子になります。もちろん、その日に配布したプリントがあれば、連絡袋に入れて一緒に届けています。連絡帳がない場合、配布したプリントにつきましては、家が近くの学年や学級の子に無理のない範囲で届けてもらうようお願いしたり、期日が迫っていないものは元気になってお子さんが登校したときに渡したりしています。欠席している子の状況に合わせて、担任が届けたり、学校から電話連絡したりするようにもしています。プリントの届け方について、再度校内で確認し、職員で共通理解をします。

○当日、学級閉鎖を決定する場合は、下校時刻を変更しない、もしくは前日に閉鎖になるかもしれないことを伝えていただきたい。

感染症によって欠席者が増えている状況が見られたときには、該当する学年・学級に欠席者が増えていることや早帰りの可能性があることを事前に学びポケットで知らせるようにしていきたいと思えます。休み明けに欠席者が急に増えて、早帰りが決まることがあります。この場合でも、できるだけ早い時間に学びポケットで知らせたいと思えます。一緒にいる時間が長くなると感染が広がる可能性が増しますので、下校時刻を変えないということは避けたいと思えます。

○市内の別の小学校では、もっとアプリが活用されているようです。クラスごとの連絡、様子など担任の先生が配信することもあるようです。子どもの学校の様子も知りたいので、もう少しアプリの活用希望です。

現在八南小では、アプリで学年と学校全体に連絡や通信を送ることはできますが、学級ごとに送る設定はされておりません。学校の様子をもっと知りたいという保護者のご意見は理解できます。アプリを利用した通信・連絡やHPなどを利用して学校の様子をさらに伝えられるよう努力していきたいと思います。ご家庭でも、時間があるときには、親子でコミュニケーションをとり、学校のことを聞くようにしていただけたらと思います。また、お子さんや学校のことで心配なこと、気がかりなことがありましたら、いつでも遠慮なく学校にご連絡ください。

○学校、PTA とあるので仕方ないかもしれないが行事の内容がプリント複数枚に渡り分かりにくいことがよくある。

本校ではペーパーレスを進めていますが、プリントによっては見にくい場合もあると思われます。整理してお伝えできるように努めていきたいと思っています。

○学びポケットのお知らせの PDF などが、学びポケットのアプリからそのまま開いて閲覧できたらいいと思う。

「まなびポケット」の閲覧方法を学校で設定することはできません。お手数をおかけしますが、添付ファイルを開いてご確認いただきますようお願いいたします。スマートフォンの機種によっては閲覧しにくい場合もあるとは思われますが、大事なお知らせもあるのでこまめにチェックしていただければと思います。

○学校で必要な物がある場合は「○日までに用意」など、日にちに余裕を持たせて教えていただけると準備がしやすく、大変ありがたいです。以上です。お手数おかけしますが、ご指導どうぞよろしくお願いいたします。

前もってわかっていることについては学年通信でお知らせできるようにします。

【その他】

○暑い日は、スポーツドリンク、塩分タブレットは持って行ってもいいのでしょうか。

スポーツドリンクは糖分を多く含んでいますので、学校からは推奨していません。塩分タブレットについては周囲の子から誤解を受けないように場所や時間を決めて補給する必要があると考えています。体力、体調面には個人差がありますので、持ってくることは、基本的に、ご家庭の判断にお任せしますが、持ってくる場合は、ご連絡いただけるとありがたく思います。

○熱中症対策で日傘を持たせたいです。

日傘の使用に関しましては、まなびポケットにて、お伝えさせていただいております。わかりにくかったかもしれませんので、わかりやすくお伝えできるようにしたいと思います。

○プールが暑さで無くなるぐらいの暑さならば、早めにリュック登校を許可して頂きたいです。30 度を超えると、小さな子どもたちにとって、重たいランドセルに、重たい水筒、重たい水泳バッグを持ち危険な暑さの中、長い帰り道を帰ってくるにはとても地獄の修行のようなものです。大人でもそう同じように感じるほどなので、子どもたちにとってはそれは何倍もの地獄に感じているはずです。その過酷さを理解した上で、これからのこの猛暑に向けて、リュック登下校以外にも打開策があれば学校にも協力的になってほしいと感じています。例えば 30 度を超えた日はお迎え必須(希望の人のみとか)にするなど、それが無理なら保冷剤や首につけるアイスネックリングの冷凍庫を教室一台完備するなど、打開策を検討して頂けるとうれしいです。よろしくお願いします。

リュックサックの利用については、気温湿度の状況を見て、早めに検討し子どもたちの負担が少しでも軽くなるよう努めたいと思います。暑さのために下校が心配なときには、学校でおうちの方のお迎えを待つようにお子さんに伝えますので、学校に電話でご連絡ください。

○何事も教師が指示するだけでなく、子どもたちの意見を聞きながら物事を決めてほしい。何事も子どもの自主性を尊重していただきたい。

学校教育の目指すところは、子どもの「生きる力」を育むことです。将来、自立して生きていくためには、子どもの主体性を伸ばしていくことが必要です。学校でも家庭でも、大人から教え与えるばかりでなく、子どもと一緒に考える、子どもに任せてみる経験がとても大切です。小学校は、1 年生から 6 年生までありますので、一律には言えませんが、大きくなるにしたがって、子どもが自ら考え、判断して行動する場面を多くする必要があると思います。子どもに任せる場合、教え、注意することが必要になることもありますが、子どもたちが納得するような声かけをしていきたいと思います。まだまだ足りないことばかりですが、引き続き、子どもの主体性を伸ばすことに心がけていきたいと思います。

○昔と今では教育のしかたが変わってきていると思うので、長年教師をやっている方には申し訳ないですが教育の仕方をその年に合わせていってほしい。

ベテラン、中堅、若手、どの教員も子どもの力を伸ばしたい、子どもを成長させたいという思いは一緒です。ただ、それぞれに個性があり、指導の仕方にも違いがあります。子どもにも個性があるので、個々の子どもに応じて違う接し方で指導する場合もあると思います。ただ、どんな指導の仕方であっても子どもが理解し、納得することが必要です。優しくする、褒めることはもちろん大切ですが、時には厳しくする、叱ることもあると思います。どの場合であっても、子どもが「自分のために」と思えるようなかわり方が必要で、昔も今も根本的な部分では、大きな違いはないかと思います。

ただ、教員の思いと子どもとのとらえ方にすれ違いができることは現実にありますので、気になるとき、ご心配なときは、直接ご連絡ください。子どもの前で担任の批判をすることは、子どもが担任を信頼できなくなることにつながり、結果として、子どものためにはならないと思います。

教員にも足りないところは多々ありますので、率直なご意見をお聞かせいただき、ご家庭と協力しながら、子どもたちをよりよく育てていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○プールの授業ができないこと。プールにはいることで冷却されるとおもいますが、通常の体育と同じ取り扱い方とは違うのではないかと。テントや日よけの設置などをしたりできないのか。

運動に関する指針が市を通して県から通知されています。暑さ指数を計測し、運動は原則禁止の指数が出ているときには、プールの授業も中止にしています。プールでは、泳ぐと体温が上がり、大量の汗

をかいているにも関わらず、水に濡れているため、のどの渇きに気づきにくくなっています。プールでの熱中症による健康被害の防止のためにご理解いただけますようお願いいたします。

○一年生に配られる黄色いランドセルカバーですが、一年生はつけるよう入学式等で伝えていただき、地域でも一年生が安全に登下校できるよう見守っていただきたいと思います。

黄色いランドセルカバーは、(株)学協社(日本コープ共済生活協同組合連合会協賛)からの新1年生に寄贈されたものです。各家庭のご判断となりますが、利用について学校からも伝えたいと思います。